



# 令和3年度 公私幼保合同研究会まとめ

## 障がい児保育研究会



大阪市保育・幼児教育センター

## ねらい

すべての子どもの「できた、わかった、たのしいね」を保障するために、一人ひとりの特性に応じた保育の方法について検討する。

## 講師

**大阪府立大学  
准教授 木曾 陽子 先生**

## テーマ

特別な支援が必要な子どもの「できた、わかった、たのしいね」のために…

## 研究の方法

- ・障がい児保育の理念であるインクルーシブ保育や合理的配慮、ユニバーサルデザインについて学ぶ。
- ・参加者が保育実践の中で検討したいと考えている子どもについて、その子どもの示す行動の理由や背景をグループワーク等で探し、具体的な手立てについて検証を行う。

## 参加園所

十三保育園	イカイノ保育園
大阪市立北加賀屋保育所	マザーシップ船場保育園
大阪市立西淡路第2保育所	大阪市立味原保育所
博愛社子ども園	今福南保育所
大阪市立東中本幼稚園	くじら保育園淀川園
大阪市立苅田南保育所	西六保育園
みつばさ保育園	東三国サンフレンズ保育園
大阪市立磯路保育所	建国幼稚園（2名）
りんりん保育園 京町堀	あい・あい保育園 桜ノ宮園
西九条保育所	

# 実施一覧

回数	日時	場所	内容
①	6月30日（水） 15:00～17:00	オンライン	講義ⅠⅡ・グループワーク（事例検討）
②	7月14日（水） 15:00～17:00	オンライン	講義Ⅲ・グループワーク（事例検討）
③	8月18日（水） 15:00～17:00	オンライン	講義Ⅳ・グループワーク（事例検討）
④	9月 8日（水） 14:00～17:00	オンライン	1・2グループワーク (事例検討)
④	9月22日（水） 14:00～17:00	オンライン	3・4グループワーク (事例検討)
⑤	10月 6日（水） 14:00～17:00	保育・幼児教育センター	1・2グループワーク (事例検討)
⑤	10月20日（水） 14:00～17:00	保育・幼児教育センター	3・4グループワーク (事例検討)
⑥	11月17日（水） 15:00～17:00	保育・幼児教育センター	グループワーク（事例検討）
⑦	12月15日（水） 15:00～17:00	保育・幼児教育センター	グループワーク（まとめ作成）
⑧	1月 12日（水） 15:00～17:00	保育・幼児教育センター	講義Ⅴ・グループワーク (まとめ作成)
⑨	3月 2日（水） 14:30～17:00	保育・幼児教育センター	研究会まとめ発表

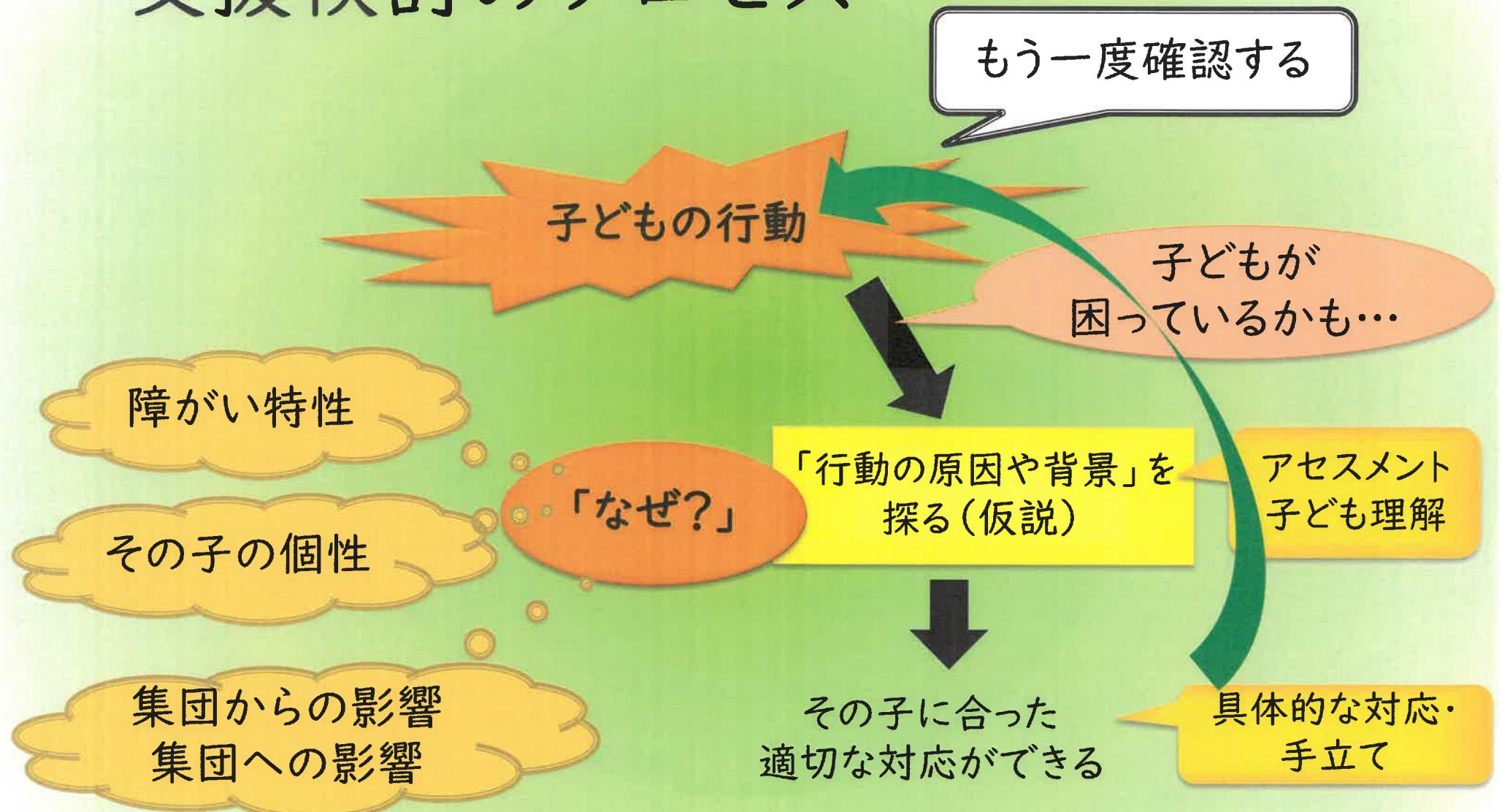
# 第1回(令和3年6月30日)

- ・インクルーシブ保育や合理的配慮、ユニバーサルデザインについて学び、子どもの特性理解とそれに応じた支援方法について学ぶ。
- ・少人数のグループで、実際の子どもやクラスの状況を出し合い、事例検討を行う。

## 講義Ⅰ：理念 支援検討 プロセス

- ・インクルーシブな保育を行う。  
→「包み込む=排除しない」とはどういうことか、保育で何を大切にするべきなのかを考える。
- ・合理的配慮を行う。  
→「同じ場にいて何もしない」ではなく、必要な配慮を可能な限り行う。
- ・ユニバーサルデザインを意識する。  
→多様な子どもたちがいることを前提に、みんなにとってより分かりやすい方法を模索する。
- ・支援検討のプロセスを考えてみる。

# 支援検討のプロセス



# 第2回(令和3年7月14日)

## 前回の復習

- ・子どもの姿から「なぜ」の理由を考えたうえで「こうしてみた」という対応とその時の様子を報告する。  
その対応がどうだったか確認し、次の支援へつなげるきっかけとする。

## 講義Ⅲ：子どもへの支援

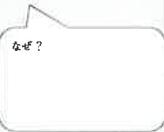
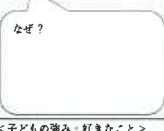
- ・環境の調整（構造化と視覚支援）を考える。
- ・ことばかけの工夫が必要である。より分かりやすいことばかけを心掛ける（例：コミック会話の活用）
- ・行動問題への対応を考える。
- ・力を伸ばす活動（からだづくり、ことば遊び、見る力・聞く力を伸ばす）を取り入れる。

## 演習：子どもへの支援を考える。

（1事例について、事例検討を行う）

- ・事例提供者から対象児の説明をし、他メンバーからの質問を受ける。
- ・気になる姿や行動の「なぜ？」と「具体的な援助や手立て」を各自で考え、チャットに書き込む。「具体的な援助」の中から事例提供者ができそうなものをまとめる。

研究会で使用する支援検討シート

障がい児保育研究会				
気になる姿	ねらい	具体的な援助・手立て	その後の様子	気づき
 なぜ？				
 なぜ？				

## 第3回(令和3年8月18日)

- ・子どもの行動の氷山モデルを理解する。  
(感覚、記憶、コミュニケーション、興味・理解、集中力・思考のくせ)
- ・支援検討のプロセス(行動や姿に対して、「なぜ?」そのような行動をするのか複数の視点で考え(障がいの特性・子どもの個性・集団からの影響・集団への影響)具体的な対応や手立てで対応する。対応後どうだったかをもう一度確認する。
- ・前回の事例提供者から対応後の報告。
- ・4グループに分かれ、各自で持参した支援ツールの紹介を行う。  
グループごとに全体の中で報告発表する。

## 第4・5・6回(令和3年9月8日～11月17日)



※毎回、事例提供者を交代し、講師よりの助言も参考に、グループで事例検討を行う。なぜ？

手立て

# 第7回(令和3年12月15日)・第8回(令和4年1月12日)

## ま め 作成・共有・修正

- 各自、A4の用紙に次の5項目をまとめ、記入したものを見せ合い、参考にしながら作成作業を進める。

- ①子どもの姿
- ②なぜ？(行動の意味を推測してみる)
- ③具体的な援助、手立て
- ④その後の様子、気づいたこと
- ⑤研究の実践全体を通した考察(研究会を通して学んだこと)



# 第8回(令和4年1月12日)

## 講義V：「なぜ」を考えるヒント

# 最終回(令和4年3月2日)

- ・「ねらい」と「テーマ」の確認を行う。  
子ども一人に対してどうかかわるか、クラス全体の振り返りをし、研究会で議論し、考え方の変化を報告する。
- ・障がい児保育の理念の振り返りと支援検討のプロセス(第1回講義Ⅰ)を再確認する。
- ・支援検討シートを活用すると、考えやすい。

## 各自 研究 ま め 共 有

- ・個人のまとめ(実践報告)の報告を、一人ずつ順番に行う。
- ・他のメンバーは、報告者のまとめに対して感想や質問を行う。
- ・報告者は質問があった場合、質問に対して答える。
- ・木曾先生から、個人のまとめの報告に対して、感想や今後の支援について助言を受ける。

## 講義:今後に活かす視点

- ・障がい児保育は保育の基本。一人として同じ子どもとはいえない。障がいの有無ではなく、互いに「違う」ことを前提に、その違いを認めていく。「違うけど、同じ。同じだけど、違う」意識が保育においては重要。
- ・援助してもうまくいかなかった時は、試行錯誤を繰り返しそぎず、「なぜ?」を大事にし、「なぜ?」を考える。そのためには、立ち止まる・観察する・考える・振り返るなどの時間が必要である。考えるために対話が必要であり、研究会はそのための場の一つである。
- ・保育者自身も子どもの姿に「なぜ?」を考えてやってみる。それによって保育者も「できた」「わかった」「たのしいね」と思えると、保育のやりがいにつながる。

## クラス背景

0歳児クラス 9名  
保育士 3名  
保育補助 1名



## 子どもの姿

名前を呼ばれても振り向かない  
反応しない事が多い。

絵本を読むと集中して楽しめ、  
自分で遊びをみつけでは、自身の  
世界に入り込み、飽きるまで遊び  
こめる元気な子



なぜ  
経験取得の問題  
今まで名前を呼ばれる機会  
がすくなかったのでは？

理解の問題  
自分の名前がわかつていな  
いのでは？

## 具体的援助

A 次の行動へ移る度に『〇〇さん行くよ』と  
伝え、名前を呼ばれる経験をもつ

B クラスの園児の顔写真をラミネートした  
『おともだち絵本』を作成し、クラス  
全体でおともだちの名前を呼んだり  
お返事をする楽しい時間を経験する

その後の  
様子

- A 行動の前に「〇〇さん ご飯いくよ」と伝えると自分で机にむかいで座ろうとする等、以前よりも参加する様子がうかがえた。  
排泄も「〇〇さんお着替えしようか」と声を替けると 以前より落ち着いて介助に参加する。
- B 『おともだち絵本』は最初、これは何かという好奇心で見ていた。しかし現在は、他の園児はとても喜び見ているが本児は反応をしない。  
保育者との1対1の対応で試みるが、持つていっても手を振り払い、これはいらない。絵本がいいといった様な態度をみせる

気づいた  
事と次へ  
の援助

名前に反応をする様子は現在もみられない。しかし名前を呼んで行動する事で参加の態度が深まっている様子から活動の見通しは感覚的に理  
解しつつあると感じる。名前を呼ばれたら何かが始まるといった感覚での認識を深める事で、次第に本児が名前だと気が付くのではないかと  
考え継続してみる。絵本も展開の楽しさが理解出来ているので期待を持って集中して楽しめていると考える。  
名前にこだわらず、絵本の反応する言葉をみつけ、一緒に楽しむ態度が本児とのコミュニケーションとしていい  
のではないかと考え、次に試みる。『おともだち絵本』には反応しないのも、見せられているだけで本児が楽しく  
ないのだと感じたので、手にとって遊べるお友達や職員の顔のスナップを作り、壁面で楽しめる様に工夫して改  
善したところ、本児の顔のスナップと担当の保育士のスナップをとり持ち歩き楽しむようになった。

研究実践を  
を通しての  
考察

演習では自分と違う側面の「なぜ」や具体的援助を聞く事で発見や気付きがあった。援助計画後の結果報告では予想外の展開も多く、特性や  
可能性は本当に人それぞれで、何がその子にマッチする支援かは計りしれないと感じた。結果からみえる新たな「なぜ」を職員間で考える事は  
担当の保育者が悩みつつも肯定的な感情で支援が継続でき相乗効果があると感じた。研修を通じ人間のすべての行動には理由「なぜ」があり  
わかりあえるヒントが隠されている事を深く学べた。「なぜそう支援したのか」自身にも問いかける事で自分をみつめる時間にもなった。



ヒントにしてもらった。

木曾先生より

1歳児 A児  
クラス編成 子ども9名 担任2名



- ・乗りもの大好き♪  
(発語はハッキリとはしていないものの、車の名前はたくさん言える。1月より、二語文が出てくる!)
- ・パズルは30ピースも1人で集中して完成させる。
- ・毎日の生活の中での身の回りのことは一通り自分でできる。

## A児の気になる姿への実践研究まとめ

### 1. <子どもの姿>

- ・好きな玩具(乗り物に関するもの)や、パズル(30ピース)等を、集中して楽しむ。その際に、他児に玩具を取られるようなトラブルがあると、保育者の仲立ちがあり、思いを受け止めて貰ったり、玩具が手元に戻ってきたらしたとしても、その後も他児を追いかける、服を引っ張る、強く押すなどを繰り返す姿がある。
- ・保育者の仲立ちでの言葉掛けは、心ここにあらずというような表情を見せ、目を合わせようとせず、体をのけ反る姿がある。

### 3. <援助・手立て>

- ・大人が視覚に映るものを切り替えてあげる…遊ぶ場所を変えたり、強く興味を示すような遊びに誘ったりする。また、トラブルがあった相手がしばらく目に入らないように、距離を遠くすることで少しでもトラブルを減らし、まずは本児が情緒安定して過ごせるように配慮する。
- ・手を出すような危険なことがあれば、分かりやすく高深に言葉でも伝えるが、躊躇を起こしているときには、無理に伝えず、保育者の言葉が耳に入りそうな様子の際に伝えていく。

5. <研究の実践全体を通しての考察>・保育で、ねらいや手立てを明確にすること、文字に起こして見通しをもつことで、実践したことの振り返りがしやすくなった。また、日々の子どもの気になる姿や、子どもが困っていることに対して国内外で共有することにより、様々な考え方や専門的視点から<なぜ>を考え、援助のやり方が広がり、実践に生かすこともでき、大変学びになった。



### 2. <なぜ?>

- ・一度嫌な出来事があると、その事が忘れられない。他児を見ると思い出して切り替えられないのではないか。言葉掛けや今、手元にあるものよりも、視覚的に映ったちのの方が刺激的で、気になってしまふのではないか

### 4. <その後の様子・気づいたこと>

- ・視界を変えてあげたり、トラブルが起きた相手とはしばらく物理的に距離をとったりすると、気持ちの切り替えが早くなる。
- ・話が入りにくい様子の際は、無理に話さず、普段の小集団での遊びや、生活のなかで二語文を中心に頻繁に伝えると、保育者の言葉に耳を傾ける姿が増えてきている。
- ・しなくていいトラブル(視界に相手が映り、思い出してトラブルになる)事が減り、笑顔で過ごす時間が増えている。



木曾先生より

## 実践報告

## 子どもの姿 2歳児 男児

- ・英語の「ABC」「123」の歌をくり返し発音している。
- ・集団になかなか入り込みず、耳を塞いで部屋の中を走り回る姿が見られる。
- ・保育者の問いかけに対し受け答えがなくコミュニケーションができない。日本語が分からぬのか思い通りに行かないと「No」と発音することがある。
- ・数字に興味があり、保育室にある時計の秒数を見て英語で発音し楽しんでいる。

## 【その後の様子・気づいたこと】

視覚支援カードを持ち入れた事で、少しずつ物と言葉が繋がり今では「トイレ行こうね」と言うと自ら行動出来るようになってきました。また、クラス内でも“声の大きさ”的表を出したことで耳を塞ぐ姿が減った。絵本などで指さした物に対し声掛けを行っていくと単語を頑張って発音しようとする姿が見られました。



木曾先生より

を考えたときにもう一度観察することが大切ですね。

## 【なぜ？】

- ・自分の中にルーティンがある
- ・知っている英語の歌を歌って安心している。
- ・友達の声がうるさく感じてしまう



## 【研究の実践全体を通した考察】

研究を通じたことで子どもの「なぜ？」どうして？」と深く学ぶ事ができた。今回の事例にも、グループで話し合いを行ったことで、その子にとってより良い援助を見つける事が出来た。また、その援助を行ったことで、子どもの成長にも気付いた。自分だけの考えだけではなくあらゆる視点を見つける事で約一年通してより良い援助方法が見つける事ができた。

## 【具体的な支援・手立て】

- ・保育者が「トイレに行こうね」と声を掛けても言葉とものがつながらないため、視覚支援カードを目で見て行動できるように知らせている。他にも本児が実際に着ている服など写真を撮り、違う活動にもカードで知らせている。



- ・耳を塞いでいるのかを観察した。周りのお友達の声が大きくなると耳を塞ぐ姿が見られた。その為、クラス間で「声の大きさの表を出し本児への援助だけではなく、「3の声は優しいお声で話そうね」とクラス間での支援を行っている。



### 《子どもの姿》



- ・2歳児A児
- ・自由遊びの時間や朝の会など、友達の所に走って突っ込んでいく

### 《なぜ？》



- ・友達と関わりたい？
- ・その様子が楽しい？
- ・集団で遊ぶ事が苦手？
- ・行動のコントロールができない？

### 《具体的な援助・手立て》

- ①好きな遊び(レゴやブロックで電車や車)を保育者・友達と一緒にする
- ②好きな玩具(レゴやブロック)を室内の入口付近に配置する

### 《その他の様子・気付いたこと》

①具体的な言葉(要求・欲求)を引き出したり、好きな遊び(電車や踏切、車)を保育者と一緒に作ろうと促した。少しずつ気持ちが安定し始め、保育者が作ったものを他児に見せに行ったり、友達が作っているものを保育者と一緒に見に行こうと手を引っ張ってその場所まで連れて行こうとする姿が見られるようになった。

②登園時間が遅い為、他児が先に遊んでいる事が多く、そちらに魅力を感じる為かあまり効果はなかった。午後も、先に出来ている玩具で遊んでいた。



### 《研究の実践全体を通しての考察》

今まで貸して欲しい玩具の部品があると友達の玩具を何も言わず取っていたが、できるだけ注意する場面を減らし、「貸してね」と保育者と一緒に伝えていくようにしたことで、少しずつ玩具を取る場面が減っていった。しつこく伝えるのではなく、さっと済ませるようにすることで気持ちの切り替えも早くなってきた。

・語彙が増え、以前よりも友達や保育者との言葉のやり取りはできるようになったが、引き続き様々な場面で今後の手立てを考える必要がある。

・「なぜ？」を考え、具体的な援助・手立てを考えていくことで一人ひとりに合った援助方法を導き出す大切さを学んだ。



遊び込めるような工夫をしたことで「手を引っ張って連れていってくれる先生との信頼関係ができる」とこと。問題行動だけに着目してしまったことがとても多いなと思いました。

木曾先生より

### ●対象児

2歳時 10人クラス（担任3人）

12月に入園したSくん。お母さんは入園前から多動で心配だと相談に行っていた様子。

### ●姿

うろうろしたり、体や気持ちのコントロールが難しく、座っている時間も体が止まらない様子。気になつたらそのものを（欲しいおもちゃや気になるもの）手に入れないと気が済まない。B君と同じように奇声を発したり、ウロウロしようとする（B君がいないと比較的しない）エコラリアがある。

### ●なぜ？

車など好きなものはたくさん欲しい。

新しい環境に不安を感じている。

友達との関わり方がわからない。

今まで我慢した経験が少ないのでないか。

保育者や友達との関係がまだできていない。

### ●手立て

- ・少人数での関わりの時間を増やす、保育の中で認めたり褒めたり、思いを受け止めたり共感することでの保育者との関係づくり
- ・カードを使いながら見通しが持てる言葉かけ
- ・集団遊びやルール遊びの中で気持ちと体のコントロールをする活動
- ・全体的に玩具の使い方のルール作り(職員用)

### ●その後の様子

おもちゃを出す前におもちゃが欲しいときは「かして」ということやタイヤは2つまでなど子どもたちと約束をしたり、職員側が一定のルールを決めて共有することでトラブルはずいぶん減ったように感じる。

Bくんと同じことをしたがるので間隔を空けて座らせることで落ち着いてきている

### ●学んだこと（研究会を通じて学んだことの視点で記入する）

発達を理解することや子どもの姿を分析することで見えてくることがたくさんあった。私たち保育者は子どもの姿や発達のみならず生育の背景や保護者の生活状況、子ども達の課題を踏まえて保育を作っていくことが大切なんだということを改めて感じた。



木曾先生より

## 子どもの姿

自分の要求が通らない（給食のおかわりをもと食べたい・おもちゃを全て使いたい等）と泣き崩れむかたが気持ちを切り替えることができない。

### なぜ？

- 状況や見通しの理解度が弱い。
- 言葉で気持ちを伝えられない。



2歳10ヶ月 Cちゃん  
(子ども24名 保育士5名)  
言語遅滞

## 具体的援助・手立て

- 楽しそうにしてる時、機嫌良く遊んでる時により積極的に動きや遊び取、た気持ちを言葉や簡単なジェスチャーに保育者が置きかえます。
- と×のジェスチャーを伝える。

## 考察

子どもの行動に対し「なぜ？」と一緒に考えてもらえることで“こんな理由もあるのかもしれない”という新たな理由や手立てを考えてもうえ、自分の保育観を見直す機会となりました。また自分の園にいないタイプの子の事例も聞かせてもらえば、支援方法を考えることも勉強になりました。どんな行動動かにもちろん理由がある！その理由やできることを教え、子どもの気持ちや想いに寄り添える保育をしたいなと思います。



木曾先生より

## その後の様子・気づいたこと

- 給食「これでおしまい」を声を掛けながらおかわりを渡すが、まだ食べたいのか立ってしまいます。  
→ 食後のデザート（果物）を食べるときに食器を自分で片付けたことで系列化して終わることができた。
- 友達に対し「ちょうどいい」や「かくて」のやりとりを保育者と一緒に使う。  
→ 周りの子どもも自分が使いたいという気持ちがあり、友達から貸してもらう経験があまりできなかつた。  
まずは保育者との貸し借りをさせながら行っていきたい。
- と×の意味はまだ理解していないようだ。
- 生活や遊びの中で○なこと、×なことをジェスチャーをつけながら伝えていく。（はじめは○から）

B児の性格…数字、音楽、身体を動かすことが大好き**子どもの姿**

イライラする時、我慢する時などに  
口に物を入れる（玩具、石、草花など）

なぜ？

- ・口に物を入れると落ち着く
- ・なぜ石や草を口に入れてはいけないのかの理解が難しい

具体的な援助、手立て

- ・歯固めやスカーフなど噛んでもいい物で代用する
- ・好きな玩具など、別の何かに意識を向けるようにする

その後の様子・気付いたこと

- ・マスクを着用している時は口に物を入れていない
- ・他の物を噛んでいる時は石や草を口に入れることは少ない

研究の実践全体を通した考察

たくさんの事例と真剣に向き合い、子どもの行動のなぜ？を複数で考えることで手立てや配慮のヒントをもらいました。自分の園や他園で試して良い結果が見られた事例を共有し合うことができたので、いただいた手立てや工夫を自分の物にし、今後の保育に活かしていきたいです。また、どんな行動にも背景があることを忘れず、子どもが求めていること、感じていることに気付ける保育者でありたいです。



**単に、口に れたり曲げたりすることを「やめさせなくては！」ではなく、本人がそうした 理由などを**

木曾先生より

**子どもの姿**

していることを止められると自分や保育者に  
嗜みつく（絵本を曲げる、カードをちぎるなど）

なぜ？

- ・ちぎる感覚が楽しい？
- ・したいことを止められたくない
- ・言葉が出ないから行動で意思表示する

具体的な援助、手立て

- ・曲げてもいい絵本だけ準備し、他の物は隠す
- ・自由な時間（個別対応）をとることでストレスを発散させる
- ・支援教室では視覚カードを使用している（○、×）
- ・我慢した時はその姿を認め、たくさん褒める

その後の様子・気付いたこと

- ・自由な時間を設けることで落ち着いている時間が増えた
- ・曲げていい物があることで、好きなだけ曲げることができ落ち着いて過ごしている